

さいたま市立大宮北中学校

# 学校だより 3月号



令和7年3月3日(月)

048 (641) 1214

048 (641) 6680 (さわやか相談)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp>

## 学校教育目標

『人間性豊かな  
実践力のある生徒』

- ◆たしかな学力
- ◆ゆたかな心情
- ◆たくましい身体

## 令和6年度を終えて

校長 小林 正美

早いもので、学校にとっては本年度の区切りとなる、年度末の月を迎えました。3年生は、あと12日で本校を卒業していくこととなります。また、1・2年生も3週間余りで修了式を迎えます。年度のまとめの時期に臨み、生徒の皆さん一人ひとりには、あらためてこの一年の「良かったところ」「反省して改善すべきところ」を振り返り、自分自身の成長を確かめるとともに、新年度に向けての新たな決意や目標を定めてほしいと願っています。この1年間、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に格段のご理解・ご協力を賜りましたこと心から感謝申し上げます。大宮北中学校が、本校スローガンのように「みんなで創る！！笑顔満開 大宮北中」だと思っただけのよう、今後も教職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ここで、世界遺産、奈良の法隆寺や薬師寺の解体や修理をおこなった宮大工、西岡 常一さんについて書かせてください。毎年3年生が修学旅行で訪ねる京都と奈良には、今もなお、昔からの寺社が数多く残っています。大仏で有名な東大寺、世界最古の木造建築といわれる法隆寺など、これらのお寺の建築に用いられたヒノキは、どれも樹齢千年以上の大木でした。その樹齢千年以上のヒノキを用いれば、建物は千年以上ももつということを見事に証明してくれています。なぜ、木造建築なのにそんなに強いのでしょうか。西岡 常一さんはその理由について次のように語っています。



『自然に育った木ゆうのは強いとせ。なぜかゆうたらですな、木から実が落ちますな。それがすぐ芽出しませんのや。出さないんでなくて、出せないんですな。ヒノキ林みたいなどは、地面までほとんど日がとどかんですわな。こうして何百年も種はがまんしておりますのや。それが時期が来て、周囲の木が倒れるかして隙間ができると、いっせいに芽出すんですな。今年のも去年のも百年前のも、いっせいにですわ。何百年もの間の種が競争するんでせ。それで勝ち抜くんですから、生き残ったやつは強い木ですわ。でも、競争はそれだけやないですよ。大きくなると、少し離れたとなりのやつが競争相手になりますし、風や雨や雪や、えらいこってすわ。ここは雪が降るから嫌や言うて、木は逃げませんからな。じつとがまんして、がまん強いやつが勝ち残るんです。千年たった木は千年以上の競争に勝ち抜いた木です。法隆寺や薬師寺の千三百年以上の木は、そんな競争を勝ち抜いてきた木なんですな。』

樹齢千年の木でつくった建物は、千年たってもどっしりとしています。これを生徒の皆さんに置き換えてみると、こんなことが言えるのではないのでしょうか。“今の時期に人生の基礎・基本をがっちり身に付けると、学びの土台が出来上がって、大人になってすばらしい力を発揮できるようになる”と。こうしたヒノキの強さを学び生徒の皆さんには、毎日の学習一つ一つを疎かにせず、目標をもって粘り強く努力することのできる人間になってほしいと心から願っています。